

# 県の水需要予測「過大」

## 設楽ダム

### 専門家「造るための数字」指摘

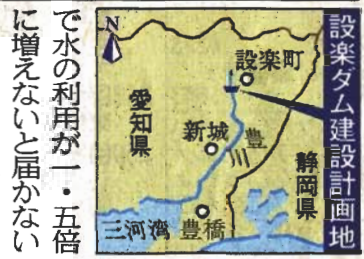
国土交通省が愛知県設楽町の豊川上流に計画している設楽ダムで、二〇〇五年に県が予測したダム計画の基になっている一五年の水道用水量見通しと、近年の実際の供給量が懸け離れていることが分かった。「県は過大な需要見通しでダムの『必要性』を訴えている」と専門家から批判の声が上がっており、建設自体の是非についてあらためて議論を呼ぶ可能性もある。

計画では、設楽ダムの総容量九千八百万トのうち、六百万トを水道用水として利用。さらにダムから豊川に水を流し流量を増やすことで、渇水時でも、水道水を安定的に供給できるとしている。

国の豊川水系水資源開発基本計画が全面的に改定された〇六年に水の利用量などが決まった。

計画の改定作業に先立ち、県は〇五年に水の需要見直しを見直し、一五年に豊川用水

に依存する水道用水需要量はピーク時で一秒間に三・四秒とし、今の水源では、過去二十年で二番目の規模だった一九九五年程度の渇水が起きると、最少で同二・五秒しか取水できず、同〇・八五ト不足すると算



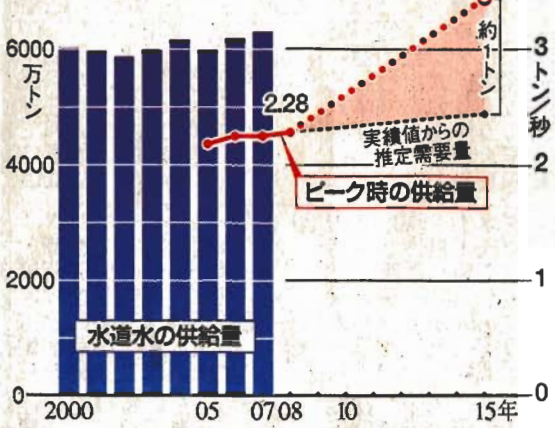
定。設楽ダムの建設で、その不足分を賄えるとした。しかし、水資源機構豊川用水総合事業部によると、〇七年の水道水のピーク時供給量は同二・二七ト、〇八年は同二・二八ト。県の見直しには、今後七年

の増え方なら、一五年の需要は県の見通しに約一トも及ばない計算で、九五年のような渇水が起きたとしても今の水源で供給は確保できると。

県は「需要量は人口の増加や水使用量の増加予測から推計した」としているが、愛知県東三河地方の人口は最近十年で2%しか増えていない。

ダム問題に詳しい岐阜大地域科学部の富樫幸一教授（経済地理学）は「愛知県や中部地方整備局はダムを造るために都合良い数字を予測している。全国的にも人口や水需要が増えない前提での対応が始まっているのに、東京と中部地域だけが遅れている」と話している。

### 豊川用水の水道用水供給実績と県の需要見通し



**設楽ダム** 1997  
3年に愛知県が設楽町に調査を申し入れた。当時は町をあげて反対運動が展開されたが条件交渉に移行。昨年10月に基本計画が公示され、同12月に町の要望に対し国と県が回答した。町は「評価できる」とし間もなく建設に同意する方針。